



145年の感謝を胸に 常磐小学校 閉校

3月14日、常磐小学校の閉校式は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことから関係者のみで行われました。145年という長い歴史に幕を閉じた常磐小。閉校までの1年間を振り返り、閉校記念事業実行委員長として関わってこられた那須さん、児童たちにとって思い出に残る1年になるよう中心となって動いてきた常磐小の野口校長先生、常磐小との統合に向けて交流活動などの取り組みを進めてこられた第一小の八木校長先生にお話を伺いました。



多古第一小学校
八木 達彦 校長

常磐小の子どもたちが一日も早く第一小に慣れるように、これまでふれあいウオークや鼓笛の合同練習、給食や授業などの交流活動を進めてきました。その様子を見てみると、子どもたちは大人が思っている以上に、大きな力と柔軟性や可能性を持っていると感じま

第一小との交流活動を重ねていくことで、子どもたち同士楽しく触れ合っている姿を見ることができ、さらに常磐小では見ることがない一面や、力を発揮している様子を見て安心しました。こういった取り組みや、保護者・地域の皆さんの温かいご協力により、子どもたちの統合に対する不安も最小限にすることができたのではないかと思います。第一小と統合になりましたが、常磐小の教育の合言葉である、「**と**もにげんき、**き**らりかがやく、**わ**かるまでまなぶ」を忘れずに、たくさんの方達の中で今後も成長し頑張っていきたいと思えます。

子どもたちの力を引き出し、
信じて見守っていききたい



卒業生たちの集合写真
(1番左秋山さん)

最後の児童会長 秋山遼介さん
初めて閉校について聞いた時はショックで悲しかったですが、残り少ない常磐小での時間を、一日一日大切に友達と過ごしてきました。その中で常磐小での大切な思い出がたくさんできました。私たち6年生は中学校へ進みますが、下級生のみんなは第一小に行っても、新しい友達や楽しい行事も待っていると思うので常磐小で学んだことを大切にして頑張っていきたいと思います。

した。子どもたち一人一人が持っている良さや可能性を引き出し信じて見守りながらも、一人一人に配慮しサポートしていきたいと思えます。初めから完璧にできるかといったら、難しい面もありますが、学校と家庭・地域が協力しながら一つ一つ課題をクリアして子どもたちが生き生きと学校生活を送れるように精一杯頑張っていきたいと思えます。



常磐小・第一小交流活動の様子



オドル野菜プロジェクト オドル枝豆



閉校式は何かがあっても
開催するという思いで



常磐小学校
閉校記念事業実行委員会
那須 保秋 実行委員長

閉校記念事業に関しては、諸先生方をはじめ第二小学校閉校当時の校長であった平山富子先生にも大変お世話になりました。実行委員会を6回開催し、その間に各部会での打合せを頻繁に行っていました。区役員さんやPTAの役員も本当によく動いてくれました。私の大きな役割は資金集めでした。皆さんのご協力で十分な資金を頂き、盛大に閉校式を行う予定でしたが規模縮小となり残念でした。後は、閉校記念誌に使う代々の卒業写真集めです。年代によっては写真が全くないクラスもあり、特に戦前戦中の写真はなかなか見つけられませんでした。ただ、思いがけなく出てきたりすると嬉しかったですね。

閉校式について、多古町では従前より教育委員会主催ではなく実行委員会主催ということで、新型コロナウイルスの影響はありましたが何があっても開催するんだという強い気持ちで臨んでいました。閉校記念式典に出席する

予定で準備をされていた約300名の皆さんにとっては最初で最後の同窓会として楽しみにしていたはずですが、その思いを叶えることができず実行委員長として申し訳なかったと思っております。ただ、教育委員会にマスクミへ働きかけをしてもらえるように要請し、その結果多くの新聞社やテレビ関係者に取り上げてもらうことができたことは大きかったと感じています。

子どもたちとの最後の約束



常磐小学校
野口 欣也 校長
(現久賀小学校)

子どもたちに閉校になることを伝え、ひとつの約束をしました。それは「みんなで閉校までの残りの時間で、常磐小の良いところをできるだけたくさん探そう」という約束です。限られた大切な時間を前向きな気持ちで、たくさん思い出を作っていました。この約束をしました。子どもたちは約束をしっかり守り常磐小での良い思い出を作ってくれたと思えます。前向きに明るく頑張ってきた子どもたちですが、統合に向け不安があることは間違いないありませんでした。そういった中、